

みんなの ひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場総務課 TEL42-1613



▲金融機関での防犯の呼びかけのようす

新年は事件のない

安心、安全な一年に…

年末の防犯パトロール

12/25

12/26

村防犯指導隊(菅野敬隊長)が、年末年始の事件が多発する時期に向けて、飯館駐在所と協働で防犯パトロールを行いました。

この日、隊員らは、村内金融機関などを巡回し、金融機関を狙った犯罪や全国で多発している「振り込め詐欺」の防止について協力を呼びかけました。

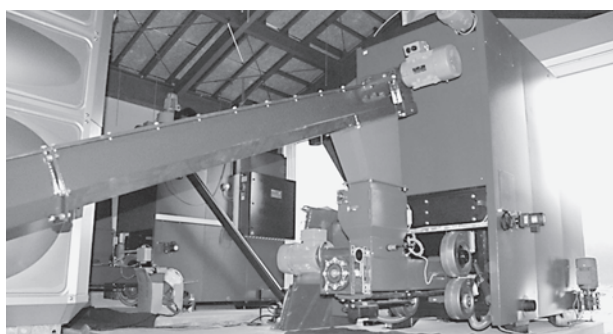
同隊では、定期的に地域パトロールを実施し、地域の安全を守っています。

1/16

いいたてホームでチップボイラー導入

エネルギーを地産地消へ

「いいたてホーム」に木材を碎いたチップを燃料とするチップボイラー二基が設置されました。
これは従来の重油ボイラーが老朽化したことや30床増床する四期棟の工事に合わせて導入を決めたもので、公的施設へのチップボイラー導入は県内でも初めてです。
今回、導入されたボイラーは、チップボイラー活用先進国の一つとしても知られるデンマーク製です。



▲4月から稼働するチップボイラー

チップボイラーは、木の間伐材を有効利用できること、二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことができるなど、環境にも優しい新エネルギーの一つとされています。
同ホームの三瓶政美施設長は「稼働後は、床暖房や給湯などをチップボイラーでまかなう予定です。木の間伐材でチップが確保でき、森林環境にも優しいチップボイラーは、今までの重油ボイラーより経費削減を図ることができます」と話していました。
同ホームでは、四期棟のオープンと合わせ、稼働を始める予定で、その時期に内覧会や環境をテーマにしたシンポジウムを開催する予定です。

宮内行政区で ミニデイサービス ●地域ぐるみ福祉活動 ●世代間交流 合同イベント開催

宮内行政区は、地域の交流につなげようと、「縄もじりコンサート」や「凧あげ大会」を行いました。

これは、ミニデイサービス、地域ぐるみ福祉活動、世代間交流などが互いに協力し、イベントを開催したものです。



▲子どもたちも縄もじりに挑戦

12/14

縄もじりコンサート

はじめに、綿津見神社の社務所で、しめ縄作りが行われました。子どもたちも、大人に教えられながら縄もじりに挑戦しました。

その後、宮内公会堂で、歌手の小川ロンさんのミニライブを行いました。小川さんは、全国各地でライブや老人施設・養護学校での慰問コンサート等の演奏活動を行っています。

参加した約50人の住民らは、昼食会を兼ねた、心温まるミニライブを通して地域交流を楽しみました。



▲小川ロンさんの歌を楽しむ参加者

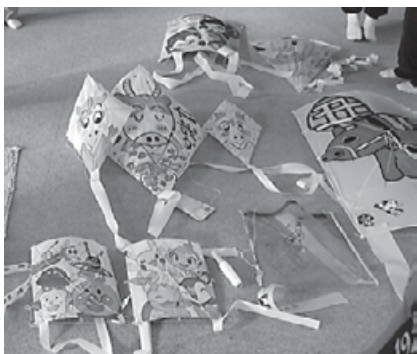
1/11

凧あげ大会

この日、宮内地区で、「凧あげ大会」が行われ、住民ら約80人が参加しました。新年の空に風を受けて舞い上がる凧は、形も大きさもさまざま。

また、「手作り凧のコンテスト」もあわせて行われ、工夫を凝らしたオリジナルの手作り凧が勢ぞろいしました。これは、大会前に行政区で、各家庭に竹ひごなどを配り、手作りを呼びかけたものです。

参加者らは、現代の家庭ではなかなか体験できない、昔ながらのお正月行事を楽しんでいました。



▲かわいいイラストの手作り凧



▲手作りの凧も大空へ



▲風を受けて舞い上がる大凧



▲凧あげを楽しむ参加者

善意をありがとう

12/25

相双地区商工会青年部連絡協議会がチャリティー収益金を寄付

相双地区商工会青年部連絡協議会は11月に開催した「平成20年度第1回名刺交換会」でチャリティーオークションを開き、収益金69,135円を飯館村スポーツ振興基金に寄付しました。

この日、飯館村商工会青年部の大井利裕青年部長と佐藤健太同副部長が村公民館を訪れ、収益金を中川喜昭生涯学習課長に手渡しました。



▲中川生涯学習課長へ収益金を手渡す佐藤健太副部長（左）、大井利裕部長（中央）

無火災への誓い新たに



▲誓いを新たにした出初め式

1/6

消防出初め式

「飯館村消防出初め式」が村公民館で行われ、消防団員や女性消防隊員など約210人が参加し、防火の誓いを新たにしました。

出初め式では、荒団長と菅野村長がいさつしたのに続き、消防庁長官退職消防団員賞状の伝達が行われました。

また、永年勤続団員らに県消防協会相馬支部長の表彰が行われました。

村で初めてのカーブ橋

名称は「**堰堤橋**」



▲大内優輝君の作品



▲大内駿輔君の作品



▲平成23年度に開通予定のバイパス

平成15年から、県代行業業として工事を行っている佐須前乗地区の「緊急地方道整備工事（佐須大倉線）」のバイパス計画延長工事（L=551m）に伴う「堰堤橋」の橋名板に、前乗地区の大内優輝君（飯館中1年）、駿輔君（草野小5年）兄弟の書が選ばれました。

これは、地元で親しんでもらえる橋にしたいと、

県が橋名を地区住民へ募集したもので、地区集会の折りに、住民から「かつて発電所と堰堤があった場所になんで『堰堤橋』がいいのでは」と意見が出され、その

名が名づけられました。また、育成会を通じて、地区の小学生に「えんていはし」、中学生に「堰堤橋」を書いてもらい、無記名での審査結果、大内さん兄弟の作品が選ばれました。

力強い筆が印象的な、兄の優輝君は「兄弟で一緒に選ばれてうれしいです」と笑顔を見せていました。

この堰堤橋は、村で初めてのカーブ橋で、平成23年度中にバイパス全線開通する予定です。



▲記念品が贈られた大内君兄弟（写真左上から菅野村長、橋本善男相双建設事務所事業部長：写真左下から佐藤公一区长、大内優輝君、大内駿輔君、大内和夫さん）



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ 親の氏名 行政区
 佐藤 舞姫ちゃん 好明・好恵 上 飯 樋
 すすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

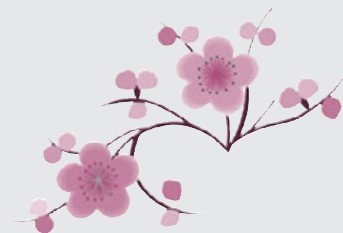
氏 名 行政区
 高 野 康 幸 前田・八和木
 齋 藤 智 子 二本松市
 いつまでもお幸せに

お く や み

氏 名	年 齢	行政区
石 川 マキイ	85	小 宮
高 橋 富 義	71	蕨 平
高 野 要 治	92	関 沢
手 渡 カネヨ	90	前田・八和木
北 山 雅 喜	27	飯 樋 町

ご冥福をお祈り申し上げます

(12月21日から平成21年1月20日までに届け出のあったものを掲載)
 ※この欄に掲載を希望しない方は、届出のときに住民係へ申し出てください。



ひとのうごき

(平成21年1月1日現在)

人 口	今 月 (前月比)	昨年同期
男	3116人 (-3人)	3182人
女	3131人 (+8人)	3212人
計	6247人 (+5人)	6394人
世帯数	1689戸 (-2戸)	1703戸

◆◆◆ 11月1日～30日までの人口動態 ◆◆◆	
転入 24人	転出 13人
出生 2人	死亡 8人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

華やかな団子さしで 豊作祈願！

1月 飯樋4区ミニデイ・伊丹沢老人クラブ



▲飯樋4区ミニデイのみなさん

飯樋4区ミニデイサービスと伊丹沢老人クラブの皆さんが、手作りの団子さしを、それぞれ、役場や公共施設などに寄贈しました。

団子さしは、米粉の団子や大判小判・タイなどをかたどった飾りをミズキの枝にとりつけ、茶の間の中柱に飾り付ける小正月の行事ですが、「豊作祈願」「一家繁栄」「豊かな生活」の願いが込められていると言われています。

今年の新年も、華やかな団子さしが、役場に訪れる方々を迎えていました。



▲伊丹沢老人クラブのみなさん

毎年1月26日は
「文化財防火デー」



▲放水訓練のようす



▲重要物搬出訓練を行う参加者ら

1/24

文化財防火デー
消防訓練

歴史を守ろう！
文化財は村の財産

草野地区の善仁寺で「第55回文化財防火デー消防訓練」が行われ、住職や門徒、村消防団員、村文化財保護審議会委員、飯館分署員などが参加しました。

この日は、「本堂から出火し、延焼拡大の恐れがある」との想定で訓練が開始され、門徒の方々による重要物搬出訓練や地域住民による消火器を使った初期消火訓練などを行いました。

参加者は、「電器具なども、火事の原因になることもあるので気をつけたい」と防火の意識を高めていました。



せいのねん 他志(大志)を抱け！

あつという間に、年末から年始になり、さらに1月も終わろうとしています。年末には、役場の玄関など、あちこちに立派な門松が飾られ、正月気分を盛り上げてもらいました。これらは草野や飯樋の老人クラブ有志の方々が作ったもので、すばらしい力作です。小正月ということで、これまた役場の玄関には、大きな団子さしが2つも飾っていただいて、他の役場では到底考えられない雰囲気を出してもらいました。役場を訪れる方は、一様に驚きながらも心なやましていたようです。

また、先ごろの「新春村民のつどい」でも、枝ぶりの良い団子さしが飾られていました。これらの団子さしは、飯樋4区ミニデイや伊丹沢老人クラブの方々が作って飾ってくれたものです。そのほかにも、老人クラブの方々には各地区で子どもに教えたり、各種のボランティア活動をしていただいております。

平成21年1月27日

飯館村長 菅野 典雄

り、感謝に絶えないところです。

さて、「桃太郎」「花咲かじい」「舌切りスズメ」など、昔話にはお年寄りが大活躍で登場します。昔話の中では、疎外されるところか、主役とさえなっています。

彼らは、老いてなお「他人が、自分に対して何をしてくれるか」ではなく、「自分は他人に何ができるのか」を考える、いわゆる今流ボランティアの精神の持ち主だと言つてよいでしょう。したがって、そのような考え方を持つお年寄りの方が、村の中にたくさんおられる限り、高齢社会は「困った社会」ではなく「五つ星社会」とも言えるのではないのでしょうか。

人生50年から100年の時代になっている今、固定観念を洗い直し、新しい考え方や生き方をもってもらわなければなりません。「自分に何ができるか」を考えていただいている限り、お年寄りは「家の守り神」であり、さらに「地域や村の守り神」でもあります。老いてますます「盛年」になつてもらうことは、本当にありがたいことですよね。